

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300408		
法人名	株式会社 ノエル		
事業所名	グループホーム ノエル本庄		
所在地	埼玉県本庄市小島1-1-34		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年2月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人が入らしく」という理念に則り、人員配置を基準よりも厚くし、一人ひとりにより接する援助を目指しています。  
 また、ホーム内共有空間づくりは、利用者を含め、できる限りケアスタッフが手作りしたものを飾るようにし、空間内に暖かみがでるよう努めています。  
 日々召し上がっていただく食事は、全て手作りで用意し、定期的な試食会を開催し好評をいただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議を活かした事業所運営が行われており、食事の試食会を行い、意見を伺ったり、外出支援のメニューを検討したりと、様々な取り組みがなされている。  
 「ケアの統一とレベルアップ」を目指して、職場内では、職員同士がよく話し合い、管理者も現場優先のやりやすい方法を取り入れるなど、職場内のチームワークが図られている。  
 H21年度の目標達成計画(事業所と地域とのつきあい)について、納涼祭や防災訓練を集まりやすい休日に開催し、地元の住民の参加を得たり、様々な交流が図られたことや、運営推進会議のテーマに、外出支援を取り上げ、外出支援用の車を購入し、外出機会を増やし、利用者にも喜ばれるなど、目標達成に向けて、職員全員で取り組みがなされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は「人が人らしく」という運営理念を共有しケアサービスに従事しています。	「人が人らしく」を基本に独自の理念が創られ、利用者の立場にたった丁寧なケアが実践されている。認知症を特別とは考えず、利用者を否定することなく、職員全員が協力し合い、利用者にとって質の高いケアに努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当社主催の納涼祭や地域の祭りへの参加、また運営推進会議とおし地域福祉へ根ざした運営を行う事を発信しています。	地域とのふれあいには積極的に取り組み、自治会の回覧板やチラシで納涼祭への参加を呼びかけたり、地域の祭りに参加したり、事業所の消火訓練に地元の住民が参加されるなど、様々な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への積極的な発信はありませんが、認知症の相談等への対応は可能だと考えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、自治会長やご家族の方々また市介護課の職員等からの意見を真摯に受け止め運営に活かしています。	運営推進会議において、参加者の関心あるテーマを取り上げ、それぞれの立場からの意見・提案が出され、事業所の運営にも活かされている。食事や外出支援について、参加者の提案から、利用者へのより良いサービスが実現された例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村介護課とは、空き状況や事故の報告等、良好な協力関係を築けていると思います。	運営推進会議を中心として、交流がなされており、家族と市担当者との様々な話し合いなども行われている。また、休日夜に開催の納涼祭にも参加いただき、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束はしていません。居室に関しては施錠はありませんが、玄関は施錠しています。	身体拘束をしないケアの方法を職員同士が意見を出し合い、議論することで、事業所として標準化・統一化されている。拘束に頼るより、自分の五感を使って、利用者に気配りすることが大切と考えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については防止を徹底すると共に、虐待に関する研修参加を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等、権利擁護に関する研修への参加を考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、丁寧に解りやすい言葉を使い、ご家族等に理解を同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及びホーム玄関への意見箱の設置を行い、運営に反映させるよう努めています。	利用者・家族の意見要望への反応はすばやく、運営推進会議で、家族から外出や食事メニューへの要望についても、すぐ対応がなされている。また、介護計画の中にも利用者や家族の意向を取り入れ、ケアの質の向上に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	イベントや援助方針等、スタッフの意見等を踏まえ意思決定するよう努めています。	職員同士がお互いに良く相談し合い、管理者には現場のやりやすい方法を取り入れる姿勢もあり、日常的に話し合いが行われ、ケアの統一が図られ、事業所の運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境の向上を考えており、且つ計画的に実行しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会及び勉強会の費用負担等、各自職員のキャリアアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	書類の整備等の情報交換を行い、同業者とも良好な関係を築く努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な事や心配な事等を丁寧聞き取り、馴染みの関係になれるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向と併せ、サービスに対する質疑等にも丁寧に詳細に回答するよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の状態に応じ、現状適切なサービスは何かを家族と共に考え、助言や当サービス以外の提案等もさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と要介護者の立場ではなく、ホームの生活環境の中で一緒に暮らしていくという姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ日常生活の様子を定期的にお知らせする他、家族の負担を考慮しながら、あくまで家族のパートナーとして利用者を支える姿勢を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会等、本人が気兼ねなくコミュニケーションを楽しめるよう心がけています。	昔の友人・知人が尋ねてこられる頻度は高く、事業所も積極的に受け入れ、支援されている。電話も自由に使用でき、手作りの年賀状を出したり、家族の協力で、自宅や墓参りに出かけるなど、様々な取り組みがなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等をとおし、日常的にコミュニケーションが図れるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者家族と経過について連絡をしたりと途切れない関係性を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや意向をできる限りくみ取る努力をしています。	利用者の「我がまま」を受け入れ、入浴やおやつ時間などにも、これまでの習慣に配慮し、普段の利用者の様子をよく見ることで、状態の変化を見逃さないことなど、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴等の聴取及び紹介元よりサービス利用経過等を入居の際にはいただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアスタッフは一人ひとりの生活の現状を把握し、情報は記録を通し共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議等で生活の現状を話し合い、各セクションから助言や指導を仰ぎ、介護計画に反映させています。	ケース会議で、職員から利用者の状況が報告され、協力医からも、往診時に、医療的なアドバイスを受けながら、情報共有し、ケアの統一を図るなど、チームでの介護計画の作成が行われている。	介護計画作成には、より専門的な知識を身につける必要があり、研修に参加したり、他事業所の事例を学ぶなど、職員のレベルアップに努められることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は項目ごとに詳細に記入し、利用者個々人の現状を把握し、ケア内容へ反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々人の多様なニーズに対応できるように柔軟性のあるサービスを考えられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で活用できる地域資源の情報をいただき、参加していきたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診は強要せず、利用者及び家族が希望する医療機関を受診するようにしています。	医療機関の選択には、特に制限は設けず、家族の協力も得ながら、職員も支援を行っている。また医療との連携体制も築かれており、必要に応じて、入院可能な病院の紹介などにも配慮がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師及び協力医療機関の看護師より必要時、助言や相談ができる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関の主治医及び担当看護師等に定期的に連絡をとり、詳細な経過等の情報を得るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針に関して、主治医と家族が直接相談できる環境を整えたり、ホームの方針を家族へ伝えたりする場を設けています。	重度化、終末期に向けての事業所の方針、利用者・家族の希望などを確認し合い、また、協力医との情報共有、連携を図りながら、支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当及び初期対応に関する研修会等への積極的な参加を考えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に則り、定期的な避難訓練及び適切な設備点検を行っています。	地域の住民が参加した合同の防災訓練も災害別に行われている。また、消防署の協力のもと、消火器使用訓練や災害時の対処方法についての質疑なども行われ、積極的な取り組みがなされている。	災害の発生は予想不可能なことで、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地域の住民と避難手順や役割分担などについて、情報の共有が図られることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人々人への声かけ等、丁寧な言葉を使用するよう心がけています。	理念により、一人ひとりの尊厳が守られており、人として他の人に知られたら恥ずかしいことは、他の人の目につかないよう配慮がなされ、入浴、排泄、居室などのプライバシーの確保にも努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を促すような支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重した暮らしができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や日常生活の中等では本人と話し合いながら衣服選びを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に献立等を話し合い、食事が楽しい時間になるよう努力しています。	理念の「人が人らしく」の考えが、食事に最も表れており、季節の初物食材を使用したり、季節行事にあわせた食事メニューの提供も行われている。また、利用者個々の好き嫌い、出し方の形態にまで配慮がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、適切な摂取量を確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの促しや週1回の訪問口腔ケアを利用し、口腔内の清潔保持を実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りリハビリパンツを使用し、排泄パターンを把握する事で失敗を減らす支援に努めています。	安易にオムツに頼ることなく、自立を目指して、個々の能力に合わせた声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう、支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々人の排泄状況を把握し、主治医より助言等をいただき便秘症状の解消へ取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間はコミュニケーションをとる良い機会であり、ゆず湯や菖蒲湯等、入浴を楽しんでもらう工夫にも努めています。	声かけ、誘導、衣服の着脱、入浴まで、利用者個々のペースに配慮しながら、支援が行われている。希望に応じて、一番風呂を交代で楽しんでいただいたり、利用者の心を開いた話を傾聴するなどにも努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにあった安眠や休息がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より副作用や用法用量について、いつでも助言や指導をいただける体制が整っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や日常的なアクティビティ等、楽しみながら日常生活を送っていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の認知症状の悪化及びADLの低下等で外出は難しくなっていますが、どうしたら外出し喜んでいただけるかを考えながら支援を行っています。	運営推進会議で外出支援をテーマに取り上げ、参加者の意見から、車を購入し、利用者全員で高崎観音に出かけたり、外食に出るなど、様々な取り組みがなされている。	家族やボランティアなどの参加・協力を募り、外出が難しい利用者も含めて、外に出て、外気にふれていただく機会を、さらに増やしていけることに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人々の認知度等に応じて、自分のお金を使用できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に手紙を出したり、電話をかけたりできるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間づくりでは、季節感や暖かみを感じてもらえるような工夫をしています。	開放的な動きやすい共用空間作りがなされており、キッチンもオープンで、利用者に家族的な生活感を味わっていただけるような配慮がなされている。玄関には季節の花が飾られ、温かみにも工夫が図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者やスタッフと気軽にコミュニケーションをとれる空間づくりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使い慣れた物を使用いただき、本人が居心地の良い空間になるよう努めています。	居心地良い居室となるよう、ベランダへの出入りも自由にでき、利用者自体が布団干しや日光浴を行っている。また、利用者の馴染みの深いものの持込には制限を設けず、家庭的な居室作りへの支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置やバリアフリー化等、本人のできる事を考慮しながら安全性に配慮したつくりになっています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム ノエル本庄

## 目標達成計画

作成日: 平成 23年 5月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の研修参加の充実	外部研修に積極的に参加し、内部研修では事例検討会等を行い、職員のスキルアップ及び意識の向上に努める。	①職員マニュアルを作成し、ケアサービスの統一を図る。 ②研修年間計画を策定し、参加をスケジュール化することにより、積極的に研修参加に努める。	6ヶ月
2	35	継続性のある災害対策	火災をはじめ地震対応等、有事の際に混乱することなく迅速に避難誘導できるよう継続し訓練を行う。	①地域の方にも積極的に訓練への参加を促し、計画的に消防訓練を行う。	3ヶ月
3	49	外出支援(外出機会を増やす)	小旅行や外食会等、計画的に行う外出支援以外にも散歩や買い物等、個別対応した外出機会をつくる。	①少人数で外出支援できるよう日常スケジュールを見直す。 ②計画的な外出(小旅行や外食)の際には、ご家族への協力依頼やボランティアの依頼等を検討する。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。